

生産性・創造性を高める空間の実現に向けた取り組みを開始

～ 自然と調和した空間設計手法確立に向けた実証実験に着手 ～

矢作建設工業株式会社（本社：名古屋市、代表取締役社長 高柳充広）は、SDGs を念頭にバイオフィリックデザインを取り入れた快適で生産性・創造性を高める空間の実現に向けた取り組みを開始し、この度、その第一段階として本社ミーティングラウンジを改修しました。

今後、当社施設を使用しデータ検証や実証実験を行うことで、設計手法の確立を目指していきます。

1. バイオフィリックデザインとは

バイオフィリックとは『バイオ=生命・自然』と『フィリア=愛好・趣味』から生まれた造語で、人間は本能的に自然を好む感性（バイオフィリア）を持っているという考えです。この考えに基づき人工的な環境下で緑など自然の要素を取り入れる設計手法をバイオフィリックデザインといい、ストレス軽減に加え幸福度・生産性・創造性を向上させる効果があることが実証されています※。

近年、健康経営の普及や働き方改革などによりオフィスの在り方は多様化しており、働く人の満足度や生産性に配慮した空間に対するニーズは今後高まると予想されます。

※出典：ロバートソン・クーパー社「ヒューマンスペース 世界中の職場におけるバイオフィリックデザインの効果」

2. ミーティングラウンジの改装

本社ミーティングラウンジの改装にあたっては、植物を配置するだけでなく小鳥のさえずりや川のせせらぎに加え、アロマを焚くことで視覚だけでなく聴覚や嗅覚など五感で自然を感じられる工夫を施しました。

また、快適性と機能性を両立するため植物のメンテナンスがしにくい場所にはフェイクグリーン（人工植物）を採用したことに加え、美観性を継続させるため植物が生育するのに必要な光量を確保した照明計画としています。加えて、ほぼ全て愛知県産の植物を使用することで、地元産業の活性化にも努めています。

3. 今後の取り組み

今後、ミーティングラウンジに加え当社の研究開発拠点であるエンジニアリングセンターに展開してデータ測定や実証実験を実施し、より一層高いパフォーマンスを発揮できるバイオフィリックデザイン手法を確立することで、オフィスのみならず商業施設やマンションにも展開、快適な空間作りを通じ SDGs の達成に貢献していきます。

4. 本社ミーティングラウンジ



小鳥のさえずりやアロマを取り入れたインフォメーションブース



壁面緑化を取り入れたミーティングスペース



木漏れ日をイメージした廊下

以上